

住みたいまち

津々浦々

松ヶ浦

松ヶ浦未来づくり計画
2020年～2029年

南九州市：松ヶ浦地区公民館

も く じ



◇ はじめに P1

◇ 本 編

「住みたいまち」松ヶ浦とは	P2・3
1 【安心・安全】なまち	P4・5
2 【支え合う心】のあるまち	P6・7
3 【整った環境】のまち	P8・9

◇ 資料編

・組織図と地区の人口状況	P10
・写真と地図で見る松ヶ浦	P11
・MATSUGAURA×SDGs	P12・13
・編集後記	



津々浦々 松ヶ浦

◇ はじめに

伊能忠敬が「絶景」と称した開聞岳を望む美しい海岸線を有する松ヶ浦地区。子どもたちは長年に渡って環境保護活動に取り組み、人々は潮風と波音とともに心豊かな日々を過ごすことができる地域でもあります。

松ヶ浦地区公民館では、南九州市のコミュニティ・プラットフォーム構想を受けて、2年にわたって住民による話し合いを積み重ねてきました。人口減少や超高齢社会における地域の課題は年々深刻になってきており、このままでは10年後20年後の松ヶ浦が「住みたいまち」ではなくなっているかもしれません。

この「松ヶ浦未来づくり計画」は、令和元年現在の住民が抱える地域課題を可能な限り出し合い、それを解決するためにはどんな具体策（プロジェクト）が必要なのかをまとめたものです。

ここにまとめた23のプロジェクトは誰かにさせられるものではなく、解決を強く望む人々がまずチームをつくり、協力して欲しい人々や企業やNPOなどに働きかけ、どうすれば解決に向かって進んでいけるかを話し合っていきます。アイデアや資金が必要な時は、行政に相談したりインターネットで発信したりすることも考えられます。

「夢のような計画だ」と思われるかもしれませんが、誰かが動き出せば何かが変わります。この計画を土台にして、まずは私たちでできることから始めてみたいと考えています。

松ヶ浦地区公民館

コミュニティ・プラットフォームとは：人口減少社会において、地区公民館ごとに地域の課題をみんなで話し合い、計画的に改善に向けて取り組もうとする共生協働の組織体制のこと。本市では略してコミ・プラと呼ぶ。

「住みたいまち」松ヶ浦 とは

かつては漁業と農業が融合して豊かな地域づくりが行えていた松ヶ浦地区だが、産業構造の変化や都市への人口流出により産業を支える人材が極端に減少してしまった。

後継者不足を感じながらも、地域を守っていこうと住民はこれまで以上に公民館活動に力を入れてきたが、そのことが若者に負担を強いることとなり、ますます人口減少状況を招く結果となってしまった。

若い世代をこれ以上減少させてはならない、超高齢社会における公民館活動を立て直さないといけない、という思いから【安心・安全】【支え合う心】【整った環境】の3つを柱にして「住みたいまち」松ヶ浦の実現に向けてここに23のプロジェクトを設定することにした。

A…すぐにでも 取り組めそうなもの
B…Aに次いで 取り組めそうなもの
C…準備出来次第 取り組めそうなもの

※このA・B・Cはその順に取り組むというのではなく、準備ができ次第順次着手していきます。BやCになるほど準備に時間がかかるものではありますが、時間をかけてでもじっくり計画をたてて取り組んでいくことを意味しています。

1.【安心・安全】なまち

台風の通り道であり海岸付近に集落が集中する松ヶ浦地区にとって、安心・安全なまちづくりは必須課題である。国道やJRの通る地域でもあるので、交通における安心・安全も欠かせない。

また、今後若者世代にとって住みたいまちにしていくには、安心して子育てができる地域にしていくことが緊急課題でもある。乳幼児期から義務教育時期まで子育て支援を充実させるためには、それを支える人材の確保が必要になる。豊かな経験を持った人材を活用することは、高齢世代の生きがいづくりにもつながっていくことを考え、次のようなプロジェクトを設定した。

- | | |
|-----------------|---|
| ① 放課後支援プロジェクト | A |
| ② 子育てプロジェクト | A |
| ③ 育成会再編プロジェクト | A |
| ④ 高齢者生活支援プロジェクト | A |
| ⑤ 託児制度プロジェクト | B |
| ⑥ 人材センタープロジェクト | B |
| ⑦ 高齢者いきいきプロジェクト | B |
| ⑧ 安心・安全プロジェクト | B |



2.【支え合う心】のあるまち

市の最南端にある松ヶ浦地区は風光明媚な海岸地帯であるが、地域活動を支える人々が減少し、地域から子ども達の歓声も少なくなっている。公民館活動は何かこれまでの伝統を守ってきたが、持続可能な住みたいまちづくりのためにはこれまでの活動を積極的に見直すと共に、新たな組織や活動の工夫が必要である。

そのためには、高齢者相互の活動や世代間の交流的活動、移住者や外国人との交流の在り方など、人々が互いに「支え合う心」を大切にしながら未来に向かって地域づくりを行うことが必要だと考え、次のようなプロジェクトを設定した。

- | | |
|--------------------|---|
| ⑨ 自治会行事見直しプロジェクト | A |
| ⑩ 地区公民館行事見直しプロジェクト | A |
| ⑪ 世代間交流プロジェクト | A |
| ⑫ 運動会検討プロジェクト | A |
| ⑬ 情報発信プロジェクト | A |
| ⑭ 移住定住プロジェクト | B |
| ⑮ 外国人プロジェクト | B |



3.【整った環境】のまち

中心部から離れた松ヶ浦地区は、買い物や通院など生活上の課題も多い。空き地や空き家も増えており、海岸や河川及び道路環境を整える人材も年々少なくなっている。生活環境と自然環境が共に整ったまちでなくては人々にとって住みたいまちとは言えない。そこで、人々が気軽に集い談笑できる豊かな空間づくりを進めようと考え、次のようなプロジェクトを設定した。

- | | |
|------------------|---|
| ⑯ コンビニプロジェクト | A |
| ⑰ 光ブロードバンドプロジェクト | A |
| ⑱ 地区公民館利用プロジェクト | A |
| ⑲ 空き家対策プロジェクト | B |
| ⑳ 働き場所対策プロジェクト | B |
| ㉑ 居場所づくりプロジェクト | B |
| ㉒ 特産品生産プロジェクト | C |
| ㉓ 名所づくりプロジェクト | C |



【安心・安全】なまち

松ヶ浦

1

放課後の
子ども支援活
動がほしい

親は学校、地
区、子ども会
など
出方が多い

インターネッ
トの使い方が
わからない

子どもたちの
意見が
取り入れられ
ていない

①放課後支援 プロジェクト

放課後や夏休みの子
どもの居場所を作り
豊かな活動を地域で
支えよう。

- ・地区公民館運営の児童クラ
ブを作る
- ・指導員等の人材を確保する
- ・市の児童クラブ事業を活用
する
- ・有償ボランティアによる人材
を確保する
- ・第二土曜日に子ども食堂を
開く
- ・人材センターを活用する

②子育て プロジェクト

海など自然を活かした
体験活動を充実させ、
高齢者と子どもの支え
合い活動を工夫しよ
う。

- ・子ども会活動等とは別の任意
活動として行う
- ・市の地区公民館講座を活用し
て地域の環境や人材を活かす
- ・孫育てセミナーを開催する
- ・自然体験(海での遊び方を教
えるなど)の場をつくる
- ・参加したくなる工夫をする

③育成会再編 プロジェクト

負担のない育成会活
動になるように地区
の関連組織や活動内
容を一本化しよう。

- ・PTA、地区、育成会の活動
を一本化する
- ・子ども会等の行事内容を見
直す
- ・自由参加型の研修会等に
変えてもらうよう市に要望
していく

買い物支
援が必要

高齢者にも
笑顔になって
もらう
活動をする

④高齢者生活支援 プロジェクト

買い物や通院の交通支
援など高齢者の生活支
援のシステムをつくら
う。

- ・地区運営の送迎システムを作る
- ・公共交通機関の時刻表を使った
利用パターンを示す
- ・ネット通販の講習会を開く
- ・インターネットにより在宅医療が
活用できるしくみを考える
- ・インターネット活用を学ぶ公民館
講座等を開く

⑥人材センター プロジェクト

高齢者の人材リスト
を作り、有償ボラン
ティアなど活躍の
場を作っていこう。

- ・人材リストを作成する
- ・活用場面を検討する
(有償ボランティア)
- ・地区公民館で人材センタ
ー業務を行う

⑦高齢者いきいき プロジェクト

高齢者の居場所づくり
や声かけ運動をさらに
活発で、楽しいものに
していこう。

- ・閉じこもりがちな高齢者に対
する取組(居場所づくり、声かけ運
動など)を企画する
- ・高齢者の生きがいづくり(サロ
ン、活躍の場の提供など)を行う
- ・見守り端末の活用を進める

子どもが
集まる場
がない

⑤託児制度 プロジェクト

会議や行事におい
て親が活動に参加
し易いように子ど
もを見守る制度を
整えよう。

- ・会議で託児所を設ける
- ・有償ボランティアの登録
制度を作る
- ・人材センターを活用する

⑧安心・安全 プロジェクト

地震・水害・火災・交
通災害など高齢者か
ら子どもまでの安全
を守る組織の機能化
と連携強化を図ろ
う。

- ・地域全体の安心・安全を総
合的に考える
- ・実践的な避難訓練を実施す
る
- ・生活弱者の避難支援の方法
を確認する

防災訓練等
で自治会と
地区が同じこ
とをしている

【支え合う心】の あるまち 松ヶ浦

2

行事は内容を
検討し少しずつ
減らしてい
った方がよい

他人と関わ
ろうとする
心が大切だ

行事は多い
が参加者は
少なくな
っている

グラウンドゴ
ルフなどの大
会はやり方
を変えてみては

⑨自治会行事見直し プロジェクト

自治会行事は自治会
内で改善に向けて話し
合いをしてもらうこと
を原則としながらも、
難しい課題は地区と
連携して解決する方
法を探っていく。

- ・単独でできないところは地区と連携できないか検討する
- ・行事の簡素化を目的とした自治会長会を開催する
- ・各自治会長の悩みをサポートする体制を整備する
- ・有償ボランティアの各種お助け隊を整備する(草刈りお助け隊など)

⑩地区公民館行事見直し プロジェクト

各世代の意見を取り入れて常に改善に取り組み、行事を縮小し、事業を拡大する公民館活動に移行する。

- ・地区行事について未来会議での意見を参考に改善していく(まとめられる行事はないか、自由参加にできるか、子どもから高齢者まで楽しめる行事にするにはなど)
- ・継続していくために一部の役員が負担にならないような運営を考える
- ・自由参加行事も考える
- ・期間限定にして見直す機会を持つ

⑪世代間交流 プロジェクト

これまでのスポーツにこだわらず、新たな世代間の交流の場を考える。

- ・ニュースポーツの取組(パタンクなど)を検討する
- ・インドアでできるゲーム(カードゲーム、ボードゲーム、健康麻雀など)も検討する
- ・自然体験を増やす

子どもも高
齢者も楽し
める内容に
変える

⑫運動会検討 プロジェクト

市民運動会への参加の仕方や地区運動会に多くの人が参加できるように改善する。

- ・市民運動会を地区対抗ではなく自由参加になるよう新しいアイデアを提案する
- ・学校の方針は優先する
- ・他の地域に住んでいる地元出身者も参加できるように工夫する
- ・自由参加でも人が集まるような工夫をする
- ・地元企業に連携を呼びかける

⑬情報発信 プロジェクト

インターネットを活用して全国から注目される地域にする。

- ・未来会議の取組を情報発信するホームページを作る
- ・情報誌やSNSを活用する

市民運動会は走
る種目を減ら
し、高齢者も参
加しやすくする

⑭移住定住プロジェクト

子育てしやすい環境を整え、誰でも地域に溶け込める受け入れ態勢が整った松ヶ浦にしてい

- ・空き家を使ったお試し居住を募集する
- ・各種行事等に参加しやすいように誘い合うしくみをつくる
- ・移住者の歓迎会を地域で行うしくみを検討する
- ・松ヶ浦で子育てをするメリット(放課後支援、英語教育、自然体験など)を考えて情報発信する
- ・松ヶ浦にしかない住みたくなる魅力がないか検討する

⑮外国人 プロジェクト

外国人と住民との交流の場を整えることで国際的な松ヶ浦にしてい

- ・現在の外国人居住者の活躍の場をさらに作る
- ・地元住民と外国人労働者の交流の場を作る
- ・空き家を利用した外国人の受け入れを検討する

【整った環境】の まち 松ヶ浦

3

男の一人暮らしなので、料理教室をやって欲しい

コンビニや道の駅がほしい

光ブロードバンドの環境を整える

公民館が地域住民のお茶飲み場になればいい

空き家をシェアして店ができるならやってみたい

①⑥コンビニプロジェクト

コンビニを核に移動販売や配食サービス、窓口サービスなど利便性を高めていこう。

- ・地域運営のコンビニを整備する
- ・コンビニの隣に冷凍食品居酒屋や野菜販売所などを設け住民で運営する
- ・コンビニによる移動販売、宅配・配食サービス、納税・住民票発行窓口サービス、ネット通販受取窓口等を検討する

①⑦光ブロードバンドプロジェクト

光ブロードバンドを最大限に活用する方策を進めよう。

- ・全てのプロジェクトの中で光ブロードバンドなど ICT 技術を活かした取組を考える

①⑧地区公民館利用プロジェクト

喫茶コーナーやサロンなど、住民がいつでも気軽に集りたいと思う公民館の運営を工夫しよう。

- ・無料 Wi-Fi スポットを整備する
- ・有料喫茶コーナーを設ける
- ・講座や世代別サロンを運営(有料も視野に入れて)する
- ・公民館講座等を開く

①⑨空き家対策プロジェクト

空き家の利活用について行政や不動産業者と連携して積極的に対策しよう。

- ・空き家・独居高齢者調査をする
- ・市の空き家バンクへの登録をサポートするしくみをつくる
- ・空き家を利用したカフェをつくる
- ・空き公共施設を利用する
- ・不動産業者とタイアップする
- ・空き家の家主への声かけを行う

住宅と働く場所がないと人は集まらない

①⑪居場所づくりプロジェクト

空き家でカラオケや冷凍食品居酒屋など住民が楽しく集う場をつくろう。

- ・空き家または公民館を利用したカラオケのできる環境を作る
- ・お客さんが少なくとも成り立つ居酒屋経営(冷凍食品居酒屋など)を検討する
- ・地区公民館、人が集まる場所の無料Wi-Fiスポット化(eスポーツもできる)を検討する

①⑫特産品生産プロジェクト

松ヶ浦の気候や土地を活かした付加価値の高い農作物を開発し栽培・販売していこう。

- ・台風時期を外した農産物栽培のできるもので高齢者も栽培できる軽量作物を検討し、松ヶ浦ブランドを作る
- ・ネット販売ができるようにする

①⑬働き場所対策プロジェクト

地元企業や事業所、休耕地での新しい働き方を考え、収入を得る機会を増やそう。

- ・地元企業(食肉センター、酒造会社、車エビ養殖場、養鶏場・GPセンター、寿楽園など)による地元住民の雇用促進を図る

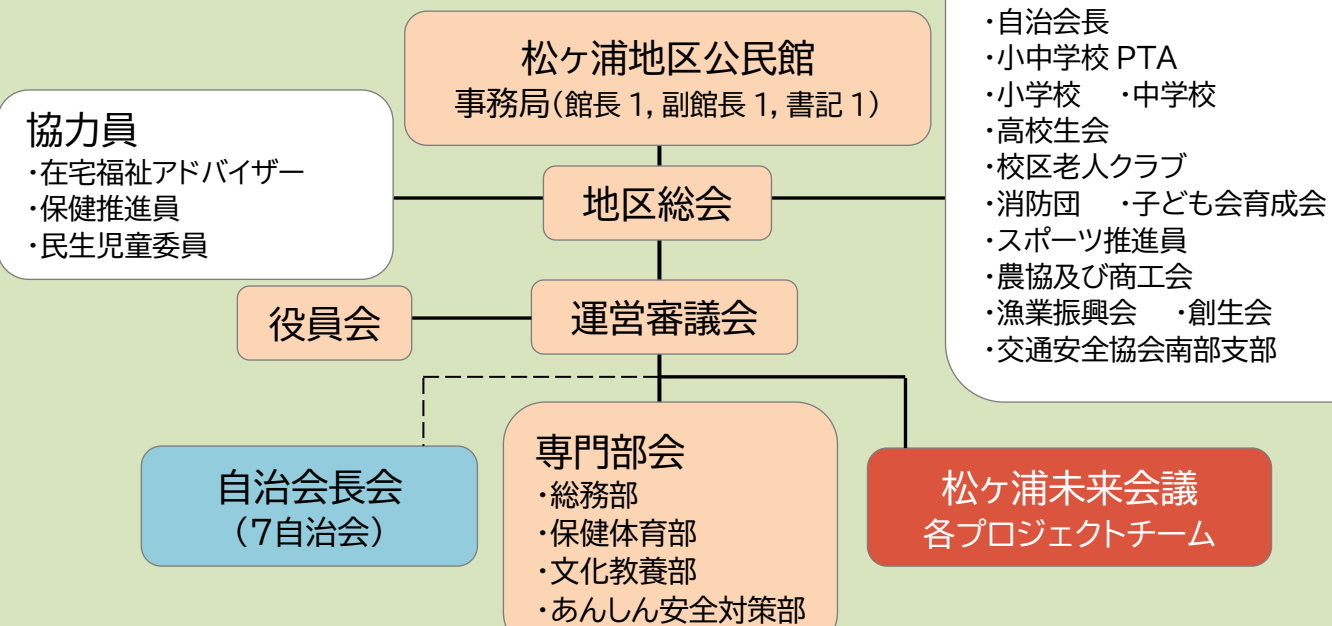
①⑭名所づくりプロジェクト

松ヶ浦の自然や歴史を満喫できる話題スポットをつくり発信しよう。

- ・釣り人口を増やすための施策を行う
- ・親子でできる釣り教室を実施する
- ・地元の釣り名人の活躍の場をつくる
- ・松ヶ浦に釣り場スポットをつくる
- ・インターネットによる情報発信を行う
- ・史跡、名所、風景等の案内人を育成する

松ヶ浦独自の農作物を考える

◇松ヶ浦地区公民館組織図



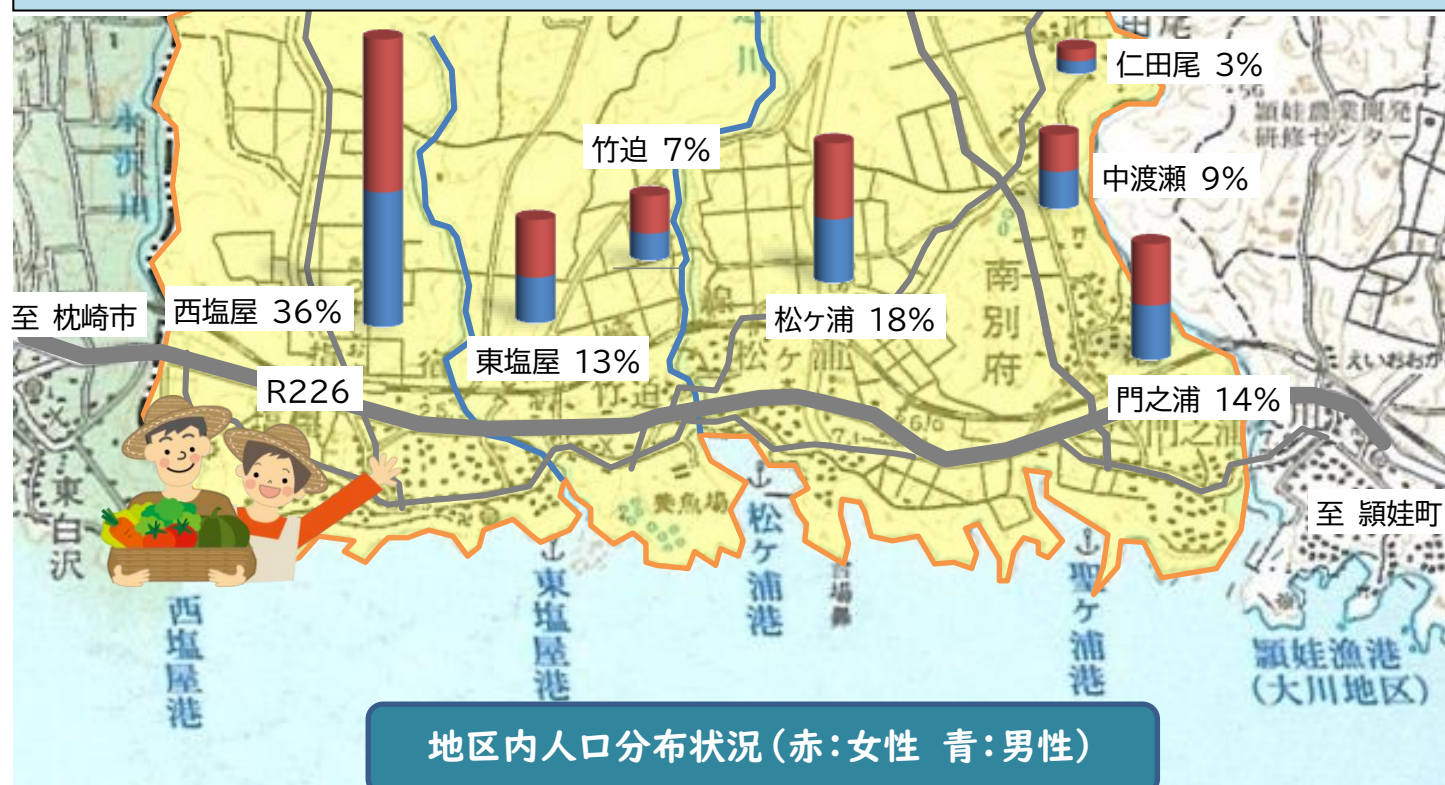
◇松ヶ浦地区の人口状況

松ヶ浦地区世帯数: 537 戸
(人口: 946 人 男性: 428 人 女性: 518 人)

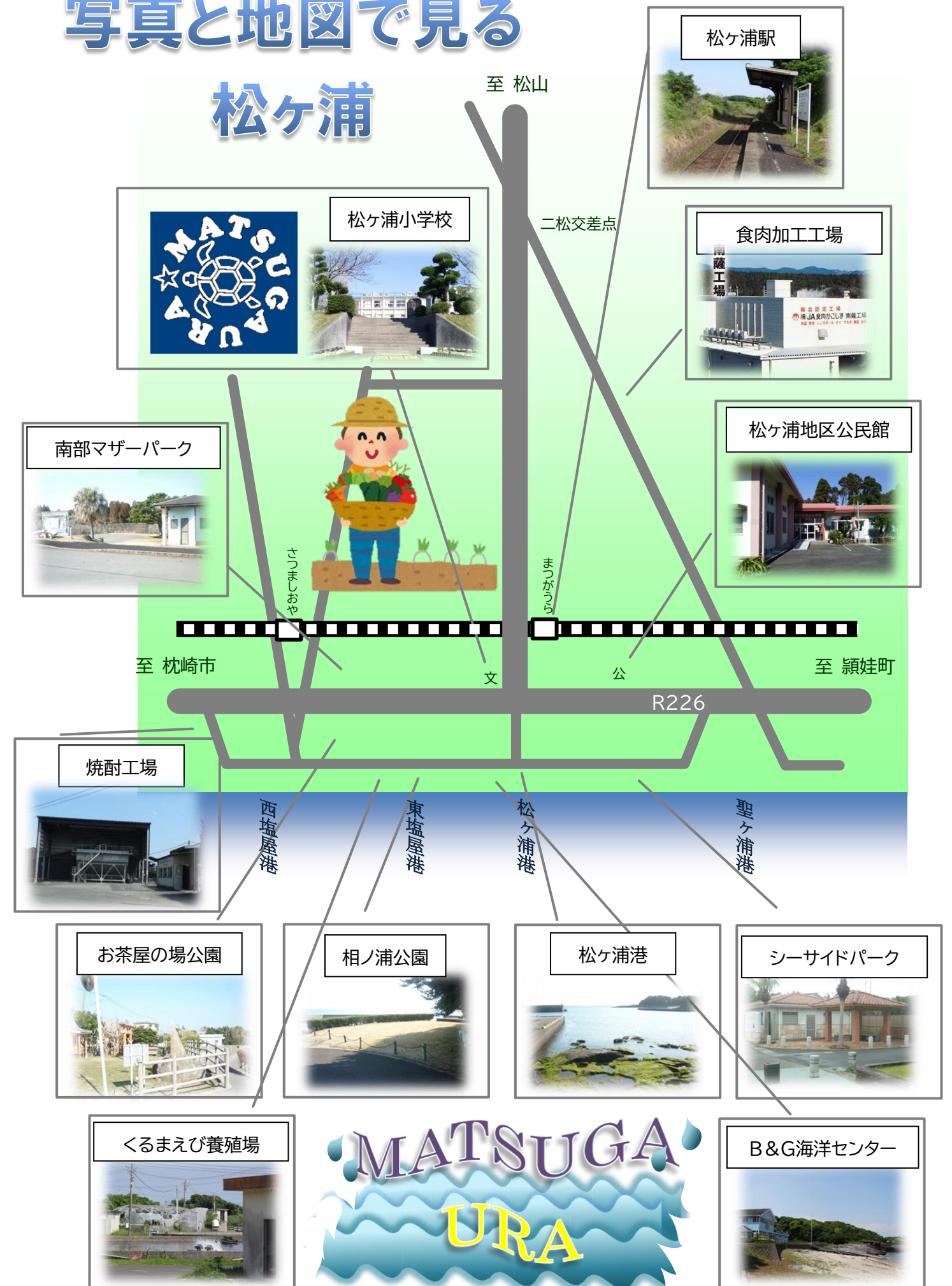
年齢層	~19 歳	20~39 歳	40~59 歳	60~79 歳	80 歳~
人数	69	84	142	439	212

※2019 年12月現在(単位:人)

南九州市	
世帯数	16,688 戸
人口	34,769 人
男性	16,230 人
女性	18,539 人
高齢化率	39.04%



写真と地図で見る 松ヶ浦



MATSUGAURA×SDGs

SDGsの目標の期限は2030年。松ヶ浦の10年計画とリンクしています。
人口減少・高齢化・経済衰退といった地域が抱える問題を客観的に見て、
持続する松ヶ浦を目指してみませんか？



【安心・安全】で，【支え合う心】のある，【整った環境】のまち

SDGsとは？



SDGsとは「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称で、「エス・ディー・ジーズ」と呼ばれています。SDGsは2015年9月の国連サミットで採択されたもので、2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた共通目標です。その中身は大きく分けて下の17のゴールで構成され、それぞれに169の細かいターゲットが定められています。しかし、どうしても地球規模の話に聞こえてしまい、自分ごと、自分が暮らす地域のこととして考えにくいかもしれません。そこで、まずは自分の身近な地域の課題がどれに当てはまるか、「まちづくり」「ひとづくり」という観点で、できていること、いないことを整理してみましょう。そして、SDGsのスローガンである「誰一人取り残さない」地域づくりを目指していきましょう。

1 貧困をなくそう	あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する	13 気候変動に具体的な対策を	気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る
2 飢餓をゼロに	飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する	8 働きがいも経済成長も	すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)を推進する	14 海の豊かさを守ろう	海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する
3 すべての人に健康と福祉を	あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	レジリエント(強靱)なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、イノベーション(技術革新)の拡大を図る	15 陸の豊かさも守ろう	陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る
4 質の高い教育をみんなに	すべての人に包摂的(※)かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する	10 人や国の不平等をなくそう	国内および国家間の格差を是正する	16 平和と公正をすべての人に	持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する
5 ジェンダー平等を実現しよう	ジェンダー(社会的・文化的性差)の平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメント(能力強化)を図る	11 住み続けられるまちづくりを	都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエント(強靱)かつ持続可能にする	17 パートナーシップで目標を達成しよう	持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップ(地球規模の協力関係)を活性化
6 安全な水とトイレを世界中に	すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する	12 つくる責任 つかう責任	持続可能な消費と生産のパターンを確保する		



編集後記

ここに10年計画「住みたいまち 津々浦々 松ヶ浦」を作成するにあたり、まずはお協力いただいた地域の皆様に感謝申し上げます。

この計画書は10年後も20年後も、さらにずっと先になっても「住みたい」と思えるまちを住民の手で創っていくためにまとめたものです。そして、それは地域の皆様が現在の課題を出し合い、「解決するためにはどうしたらよいか」を未来会議を通じて話し合ってきた成果なのです。「住みたいまち」にするのは地域の皆様の思いひとつなのです。

この計画書は、令和2年度から実行に向けて具体的な話し合いの段階に入ります。今後とも皆様の積極的な参加・協力をお願いいたします。

最後に、この計画書作成に当たりご尽力くださった、南九州市企画課及び集落支援員をはじめ関係各位に感謝申し上げます。

松ヶ浦地区公民館長 平石 大

住みたいまち 津々浦々 松ヶ浦

2020年～2029年 松ヶ浦未来づくり計画

編集 松ヶ浦未来会議
協力 南九州市企画課
南九州市集落支援員
南九州市中央公民館

デザイン： 安田 和秋・齋藤 博・田中 崇徳

発行 松ヶ浦地区公民館
〒891-0912 鹿児島県南九州市知覧町南別府 25159
TEL&FAX:0993-86-2775